

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタディ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供：子どもに応じた適切な関わりを行うように、事業所内の会議を開き、子どもの状態、家族の状況を把握し関わりを一致させています。その後、振り返りを行っています。発達支援プランは、一人一人保護者に対して、普段の様子を含めながら細かく話しています。	子どもとの関わりでは、職員やパート職員が一致した関わりが出来るように、細かいコミュニケーションを図り、やり取りを多く持っています。保護者支援の中で、事業所内相談支援や電話での連絡等で事業所での子どもの様子や行事での参加の様子など細かく伝えていきます。家での様子も把握しながら支援に繋がっています。	計画的に、事業所内相談支援を行います。保護者支援では、グループカウンセリングに参加する母が固定されているので、事業所内相談の中でも話をしながらお母さん同士横の繋がり、仲間の繋がりを築いていくことができるように声を掛けていきます。
2	家族支援：事業所内相談支援の中で、お母さん1人1人の話を聞き、その中で支援が必要な部門につなげています。グループカウンセリングに参加するように促しています。その中でお母さん同士の横のつながりを強めていくように働きかけています。	事業所内相談支援は、計画的に行い、お母さん一人一人に連絡を取りながら確実に出来るように行っています。グループカウンセリングに入る職員とのやり取りを行い、情報共有をし、方向性を決めながら進めていきます。	お母さん同士の横のつながりを築くために、グループカウンセリング以外のランチ会などをクラス内で職員も入りながら行っています。
3	人材育成：職員に個別のスーパービジョンを行い、仕事で困っていることや頑張っていることなどを聞きながら時には一緒に解決をしています。年代別研修があり、その中で様々な分野の研修を受けています。グループワークなどをする中で自分の意見を伝え、意見を聞き、取りまとめています。	職員一人一人を大切にしています。表情や態度を見て、心配のある職員には声をかけて関わりをもっています。毎月個別スーパービジョンを行うことができるように計画的に行っています。	同じ生い立ちなどの職員とグループで話しをする時間を設け、自己肯定感を高め、一人ではないこと、同じ仲間がいるなど感じていけるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がないです。	並行通園先の保育園や幼稚園や事業所など、固定化してしまう。	積極的に並行通園している保育園、幼稚園や事業所にこちらから連絡をし繋がりを築いていきます。その中で役割分担をしながら、子どもと家族の支援に繋がっていきます。